

原田秀逸先生を偲んで

裕 哲崇

朝日大学歯学部口腔機能修復学講座口腔生理学分野 教授



鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 名誉教授 原田秀逸先生が2024年4月10日に74歳の生涯を閉じ永眠されました。

原田先生といえば、味細胞の成長発育に関する解剖組織学や味神経応答記録といった生理学にわたる幅広い見識と技術をお持ちであったこと、特に、口蓋の味覚情報を伝える大錐体神経の記録と解析では、国際的にも並び立つ者のいない第一人者であったことは、本学会会員であれば誰もが知るところであろうかと思えます。

私ごとで恐縮ですが、大学院生時代の電気生理学的実験の拙い発表を原田先生は真摯にお聞きくださり、その研究をさらに発展させるための的確なアドバイスを下さいました。研究を始めた当初は、御高明な先生であり、きっと厳しい方に違いないとばかり思っておりましたが、原田先生は、ご自身のまだ発表前段階であるような情報も隠すことなくご教示くださり、それは、今日でも私の研究の基盤となっております。

原田先生と私の興味の視点は類似することが多く、私自身、鹿児島に何度も足を運びましたし、原田先生が大阪（当時、私は大阪大学におりました）までおいで下さり、直接実験指導をしていただくこともありました。この時に行った研究が共著論文となりましたことは、私の誇りでもあります。

前述のように原田先生は大錐体神経からの応答記録のスペシャリストで、何度もそのテクニックをご教示いただく機会がありましたが、私の努力不足もあり、結果的にその技術をもにすることができず、ついに原田先生は永眠なされてしまいました。このことは、あの卓越した技術が、この世の誰にも継承されないまま潰えてしまったことを意味しており、あの時、諦めずに教えを聞いておくべきだったと悔やんでも悔やみきれません。

本学会の運営においても、原田先生は、学術広報委員（2006-2008）や編集委員長（2009-2011）として貢献なさいました。現在の学術広報は委員会組織となり複数名で運営されておりますが、当時はまだインターネットの黎明期であり e-mail でさえ一部のマニアしか使っていないような状況でした。そのような中で、学術広報は原田先生がおひとりで切り盛りされておられたのです。ただ、先生は「今後、インターネットで世界は変わるはず」という強い信念をお持ちであり、「他の学会に先駆けてホームページやメーリングリストを作りたいから、手伝ってくれないか？」と私に声をかけて下さることになりました。当時は、まだ素人が簡単に使えるプログラムはありませんでしたので、原田先生はハードウェアからソフトウェアに至るほぼすべてを自力で作り上げられ、私も微力ながらお手伝

いすることになりました。現在の日本味と匂学会のwebを見ていただくと`jasts.com、という立派な独立したアドレスになっておりますが、web開設当時からしばらくの間、本学会のwebデータは`kagoshima-u.ac.jp、の中にありました。このことは、本学会のネットワークサービスが、原田先生のまったくのボランティアから成りたっていたことを意味していたのですが、もうこのことを覚えてらっしゃる方も少ないかも知れません。

くしくも本年（2024年）1月、学術広報委員の先生方のご苦勞もあり学会webが、完全リニューアルされました。御家族様によりますと、原田先生は特に本学会への思い入れが強く、学会の話題をいつも御家庭で

楽しく語っていらしたとのこと。きっと、このリニューアルされたホームページも病床にてご覧下さっていたに違いありません。学会員の皆様におかれましては、学会のホームページにアクセスする度に、このページが原田先生のご苦勞の元に始まったものであることに、心を馳せていただければ幸いに存じます。

末筆になりましたが、原田秀逸先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（お写真は鹿児島大学 大学院医歯学合研究科 生体機能制御学講座 口腔生理学分野からご提供いただいたものです。）